

## SDGs の VNR に関する意見骨子

春日文子（長崎大学・Future Earth）

1. SDGs の達成に向けて、危機感を持って 2030 年まで一層の努力が必要
  - (ア)世界的にも進捗が遅れ、達成は非常に困難
  - (イ)国内では SDGs の認知は進んだものの関心の低下
2. 前回の VNR 2021 と比較し、今回も 2030 年に向けたビジョンが必要
3. 5つのPごとの日本の取組み紹介は納得できる（前回は8つの優先課題ごと）
  - (ア)平和に関して、今年のノーベル平和賞の受賞と核廃絶に向けた努力について特記すべき
4. 17の目標毎の達成状況評価が報告書の中心
  - (ア)評価方法、評価基準の議論が必要、データに基づく科学的評価が重要
  - (イ)17の目標間の Trade-Off と Synergy に関する包括的評価が必要
  - (ウ)2021年のVNRをそれ以降の行動に生かしたかどうか、弱点にどう対応したか
  - (エ)Pact for the Future との比較の視点も望まれる
  - (オ)円卓会議民間構成員からの情報提供も可能、2021年同様、民間構成員による評価も
5. 今後の方向性に関して
  - (ア)2030年に向けたロードマップの提示を
  - (イ)ポスト SDGs への指針ーやはり目標間の連関に注目した包括的な視点を
  - (ウ)国際社会や地球環境の危機の現実を踏まえ、プラネタリーヘルスの理念に基づき日本の果たすべき役割、日本の取るべき行動、国際協調のあり方の提案を